

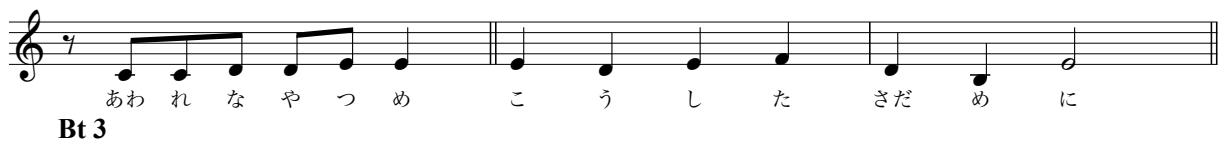
# 第11回放送 美女と野獸

## 1. それぞれのライトモティーフ

この作品では、主要なキャラクターはそれぞれ決まったモティーフをもつていて、ナンバーだけでなく場面転換や序曲などオーケストラのみのシーンでも実に巧妙に絡みあい全体を構成しています。まずは、それぞれの実例を見てみましょう。

## (1) ビースト Bt 1

Bt 1



## (2) ベル **PL 1**

Bl 1



Bl 3

## Bl 4 「変わり者ベル」の間奏



### (3) ビーストとベル

Bt/Bl 1 『美女と野獣』の前奏



Bt/Bl 2



序曲と変身はこれらのモティーフの組み合わせでできています。さらに、モリースのモティーフは、



Bt 1の短調変奏です。一幕でモリースがオオカミに襲われるシーンで使用されるほか、二幕冒頭で同じくオオカミに襲われたベルを助けにくるビーストにこのモティーフがあてられていることから、ベルにとって唯一の存在である父の姿、父性をビーストに少しづつ見出していく伏線ではないでしょうか。そしてガストンはふたつ。



2つ目は次の章で考証します。

## 2. ワルツでいばろうぜ

ガストンのモティーフは、以下の通りです。

おしゃれなガストンすばやいガストン

この曲は速い3拍子で、曲の種類としてはワルツに分類されます。実はこのワルツというものはほかのミュージカル作品でみると、ある特定の性格をもったキャラクターが歌う傾向にあることがうかがえます。筆頭に挙げられるのは、『レ・ミゼラブル』のテナルディエです。

ゆかいだねごうきだねエリートがななかまとは

そしてあまり知名度はありませんが『ピーターパン』のフック船長。

われこそはあくとう

これらのキャラクターの共通点を見出し、またこの章のタイトルを回収してくれるのが、同じく『ピーターパン』のタイトルロールです。日本語で『いばろうぜ』と訳される曲。

いばろうぜ  
かくさないで  
じまんしょう  
きみのこと

これらの人物の共通点は、空威張りしているという点です。そのこととワルツという音楽との関連性は定かではありませんが、これに『ウエストサイド物語』のマリア（2幕冒頭）を加えたキャラクターたちは、音楽的に一括りすることができるのではないでしょうか。

## 3. Transformationの組成

ビーストが人間に戻るときの音楽は、前述のようにそれぞれのモティーフを組み合わせてできています。その順序を見てみると実によく考えられていることがわかります。

Home→Bt 3→運命のテーマ（後述）→Bl 3→Bl 1→Bl 2→Bt 2→Bl 3→Bt 1→  
Bt/Bl 2→Bt 3→Bt/Bl 2

ご覧のように、ベルとビーストそれぞれの音楽が絡み合ってひとつになっていく、『美女と野獣』のテーマに帰結していくという、なんとも美しい経過をたどっているのです。

### ◎上級者向けコーナー

この作品の運命のテーマは、ふたつの和声です。『愛せぬならば』の「もはや」という歌詞、「（できぬな）らば」という歌詞についていて、そのほか最後の薔薇が散る瞬間など重要な場面で使用されます。非常にイレギュラーな進行なので耳に残ります。

The notation shows two staves: a treble staff with a G major chord (B, D, G) and a bass staff with a C major chord (E, G, C). The bass staff has a note value of a half note.